

平成 29 年度岩手県立博物館協議会における意見等の反映状況

No.	委員名	意見等の概要	反映状況等
○ 広報関係について			
1	松政委員	<p>【ツイッターの活用】について</p> <p>英語のツイッターも発信するのがいいのではないか。</p>	<p>【学芸第一課】</p> <p>ツイッター、フェイスブック等での情報発信の多言語化対応については、引続き検討して参りたい。</p>
2	及川委員	<p>【広報】について</p> <p>学校にはたくさんの文書が来るが、直接訪問も含め「オッ」と目をつけられるかどうか。小学校には発信の仕方の一工夫をとということ、そういうところが大事だと思う。</p>	<p>【学芸第一課】</p> <p>H28 年度の春休みから「いわはく子ども新聞」を発行し、学校経由で内陸部の小学校の全校児童に配布しており、効果を上げている。</p> <p>H30 年度からは GW・夏休み・冬休み・春休みと長期の休み期間にあわせて年 4 回配布予定である。</p>
○ 展示関係について			
3	沼里委員	<p>【震災（被災地）関連の展示】について</p> <p>子供向けには災害に対する心構えと実際の行動面で、やがて子供たちに帰ってくるような、そういう仕掛けができれば来るのでないか。</p>	<p>【学芸第三課】</p> <p>現状、震災関連の展示については、陸前高田被災資料の修復に関するものだけであるが、2 年後に迫った「開館 40 周年展」に向け、関連資料の抽出等、準備を進めている。また、他の施設との連携も視野に入れ、今後は相互の調整も図っていきたい。</p>
4	佐藤委員	<p>震災、被災に関連して、何がなんでも現地に行ってみてということではなく、盛岡でできることとして、他県の人やインバウンドの人、また、県内の人への防災教育という部分も含めて、例えば、県立図書館、県立美術館と県立博物館がトライアングルで、関連資料を展示等して震災のことを紹介できればと思う。</p> <p>10 年で一区切りでもあるから、お金も時間もかかるかもしれないが、プランニングをしてそういうことができればと思う。</p>	
5	松政委員	<p>震災津波関係についても、沿岸に行く前に来てもらう、逆に沿岸に行ってから来てもらうようなプランを博物館から押し出したらどうだろうか。勉強になるように、博物館から提示していくことができればと思う。</p>	

6	松政委員	<p>【観察会との連動】について</p> <p>クモ展の宣伝をするのに、観察会も連動させるのがよいと思う。クモを含んだ観察会を、都市型の盛岡市、自然豊かな岩泉町とかで。その場合、子供向けだけでなく、親子で来てもらうようにして、どちらかが楽しめれば一緒に来ると思う。</p>	<p>【学芸第三課・(渡辺)】</p> <p>クモ観察会(自然観察会)を博物館近郊の小鹿公園で1回行ったほか、博物館の敷地内で1時間程度のミニ観察会を5回開催した(いずれも展覧会会期中)。参加者は親子連れが中心で、身近なクモでも「初めて見た」という声も多く、毎回好評だった。</p>
○ 展示以外の企画について			
7	松政委員	<p>【ナイトミュージアム】について</p> <p>ナイトミュージアムについては、大人バージョンで音楽会とかを併せて行うのはどうか。</p>	<p>【学芸第三課】</p> <p>実施2年目の事業ということもあり、現時点での問題点を洗い出すべく、昨年度とほぼ同じ内容で実施した。今後は、新たなメニューも取り入れる方向で検討したい。</p>
8	沼里委員	<p>【ロケーション、施設の活用】について</p> <p>ロケーションを武器にできる場所であることから、立派なオーケストラでなくても、若者、大人向けに、高校生のバンドや学生サークルなどが、ここを利用した音楽会とかを仕組むことも可能ではと思う。また、学問、研究だけでなく、芸術についての成果を発表するにもいいのではないか。</p>	<p>【学芸第三課】</p> <p>今年度、クラシックカーイベントの2回目を開催したが、県外からも参加があり好評であった。また、「博物館まつり」では、テーマ展にちなんだ動物と触れ合えるコーナーを開設したが、これも好評を博した。</p> <p>野外では芝生広場、館内なら講堂など、県博ならではのロケーションや設備をうまく売り込みたい。</p>
9	細越委員	<p>【冬の写生会】について</p> <p>描ける題材が限られている感じがあることから、例えば、その期間だけホネの標本を出してもらうとか、また、季節を変えてシニア向けに植物写生会なども実施してはどうだろうか。</p>	<p>【総務課】</p> <p>今年度は、同時期に干支展示でイノシシの剥製、トピック展として昆虫標本を展示するなど、画題の提供を図った。この写生会は、松園地区を中心とした地域の子どもたちの博物館に親しむイベントとして定着しているが、リニューアルについても考えていきたい。</p>

○ 入館者の確保関係について			
10	千葉委員	<p>【北海道からの集客】について</p> <p>北海道からの集客に関する意見に対する対応で、旅行業者に学習旅行案内を送付したとのことだが、29年度に送ってリアクションはあるか。</p>	<p>【学芸第一課】</p> <p>震災前は、道南から札幌市にかけて、中学生の修学旅行での団体利用が増加しつつあったが、震災の影響で激減した。博物館に来ればこんなことが学習できるし、見学できますよ、というチラシを作って、28年度から配っている。</p> <p>修学旅行の計画は、交通機関の関係もあり、2年以上前に計画される。この後、どういう効果が出るか、見ていきたい。地道に取り組んでいきたい。</p>
11	飯坂委員	<p>【入館者数増加要因の分析】について</p> <p>チラシのデザイン力とかも上がっているように思うが、入館者がどうして増えているのか、今一度分析を聞きたい。</p>	<p>【学芸第一課・総務課】</p> <p>過去3年で大きく増加した世代別入館者は、個人利用の小中学生と一般であり、広報手段として「いわはく子ども新聞」により直接的に各家庭へ、TV・ラジオ等のメディア広報による一般への情報提供の成果として、児童生徒のいる家族連れとシニア世代が増加したものと考えられる。</p> <p>展覧会のチラシは、外部依頼やプロジェクトチームデザイナー等の助力により、魅力的なデザインが多くなり、岩手広告協会での受賞実績もある。</p> <p>「博物館はサービス業」という意識が職員に浸透してきて、「来てもらった人に喜んでもらうにはどうしたらいいのか」を深く考えて、理解してきているのではないか。</p> <p>また、担当者任せでなく、皆で盛り上げて協力体制が構築されてきたことが要因として挙げられるかと思う。それらが重なり合って、多くの方に喜んでいただいているのではないかと思う。</p>

1 2	大沢委員	<p>【子供会の集客】について</p> <p>入館者増に向けては、PTA を通じて子供会に呼びかけたらどうか。長期の休みの時など、バスは行政に頼めば使えるのではないか。</p>	<p>【学芸第一課】</p> <p>個人情報保護もあり、各 PTA への直接的な呼びかけは難しいが、長期休みに配布している「いわはく子ども新聞」がその役割を果たしているものと考えている。</p>
1 3	齋藤委員	<p>【公民館を通じた集客】について</p> <p>例えば「岩手の往来」展では、宮古街道添いの公民館とかにアピール、案内するのはどうか。自治体のバスを使って来てもらうようなことはどうだろうかと思う。</p>	<p>【学芸第一課・(菌田)】</p> <p>公民館へは「博物館だより」を毎年四半期毎に、「行事案内」は上・下半期毎に配布して情報提供を行っている。</p> <p>現在の国道 106 号から旧道の宮古街道沿いを歩いたり、盛岡市内の街道関連の史跡等を訪ねる企画を計画中である。</p>
○ 博学連携について			
1 4	松政委員	<p>【外部との連携】について</p> <p>大学や森林総合研究所等の研究施設の研究者との連携もどうか。</p>	<p>【学芸第二課・(鈴木)】</p> <p>自然史部門では、学芸員の調査研究活動において、森林総合研究所東北支所・岩手大学・岩手県立大学・県水産技術センター・県林業技術センター・県環境保健研究センター等の研究者との協力関係がある。</p> <p>また、資料収集・展示活動においては、資料の貸借や寄贈、同定等に、県内をはじめ各地の研究者の協力をいただいている。</p> <p>さらに教育普及活動においては、松政委員をはじめ県内の研究者の方に県博日曜講座等の講師にいらしていただくなど、多大なご協力をいただいている。</p>

1 5	及川委員	<p>【教育現場との連携】について</p> <p>小学校は来年度から授業時間が増えるほか、外国語活動導入などもあり、博物館に足を運んで時間をかけてというのはますます難しくなる。出前講座や資料貸出をさらに充実して行ってほしい。</p>	<p>【学芸第三課】</p> <p>小学校との連携については、チラシの配布域の拡大を図るなど、広報を中心に対策を講じた。まずは、対象の来館者を増やし、そこから出前講座等の利用を促進する。</p>
1 6	細越委員	<p>【中学生、高校生を対象とした事業】について</p> <p>小学校の後の中学生、高校生向けのプログラムがないように感じる。他県から来てもらうというより、まず地元の利用を増やす。例えば、中学生向けには、職場訪問の受入れでバックヤードツアーよりさらに門戸を開くとか、どうだろうか。</p>	<p>【学芸第三課】</p> <p>小学生と比べると、中高生の利用は少ない。委員のご意見等も踏まえ、中高生にも興味・関心を持ってもらえる新しいプログラムを工夫し、導入を図りたい。</p>
○ その他			
1 7	齋藤委員	<p>【博物館利用者のカウント】について</p> <p>観察会、出前講座の人数は入館者と別になっていると思う。当館（石神の丘美術館）でも、ワークショップ参加者とか、アウトリーチの活動については数に入っていないが、博物館の利用者ということから言えば、それらもすべて利用者にとらえられると思う。</p> <p>全体の博物館利用者も数字として見てみたいので、是非カウントをお願いしたいと思う。</p> <p>当館も同じような状況であり、博物館はもっと裾野が広いということを見ていただければという気持ちがある。</p>	<p>【総務課】</p> <p>博物館では本年度、3期目となる新しい博物館中期計画（5年）を策定した。</p> <p>計画では目標指標を設定しているが、このご意見を受け、また、当館としても入館者数だけでなく、博物館の活動を広くとらえる指標の設定を考えていたことから、そのような目標値を盛り込んだ。</p> <p>具体的には、入館者数に、館内外で行う教育普及活動参加者数、移動展参加者数を加えた人数を目標値として設定し、総利用者数の目標とした。</p>